

# 地域連携 だより

彦根市立病院  
〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地  
TEL : 0749-22-6050(代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室  
TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093

いつもありがとうございます

## 医療における 歯科口腔医療の新たな展開

### 歯科口腔外科部長(統括) 山田 剛也



当科は、京都大学口腔外科教室から赴任した前任者が、診療科名を歯科口腔外科に改め、平成10年に後任として赴任した山田が、地域の歯科・医科の先生からご紹介いただいた患者さんの、口腔外科治療を診療の中心とする二次歯科口腔医療機関として他診療科のご協力のもと今日まで診療を行っています。

平成30年度診療報酬改定では、顎変形症、口腔がんなどの口腔外科疾患治療の評価、周術期等の充実に加え、昨今の超高齢化社会を反映して、医療における口腔機能管理の役割が期待される内容となりました。口腔機能管理は、慢性病態にも有効とされ、全国的に介護や地域医療計画に積極的に導入されています。

今回新たに設けられた病名「口腔機能低下症」は、全身的影響が大きく、複数の診療領域に十分な理解や連携が治療に必要なとされています。それぞれの専門的診療にもとづく管理の立案と、薬剤師をはじめとする多職種連携によ

る管理・治療の適切な実施が求められています。また、「周術期等における口腔機能の管理」では対象疾患が拡大され「口腔内が不潔な患者」も適応とされましたので、今後は、当院へ入院されるすべての患者さんを対象に、口腔状態のチェックを実施し、治療に必要な口腔治療の施行を日本大学歯学部附属歯科病院のご協力のもと、準備が整い次第順次提供する予定です。

しかし、急性期病院の入院期間の短縮、当科の設備・人員等の関係で、地域の歯科の先生方には歯科治療をお願いする逆紹介が増えてまいります。病診連携、診診連携にさらなるご理解・ご協力をお願いします。

今後とも病院事業管理者の指導のもと、地域住民の皆様の健康な生活に寄与できるよう当科職員一同鋭意努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

# 口腔がん

## ～認知度向上で早期発見を！～

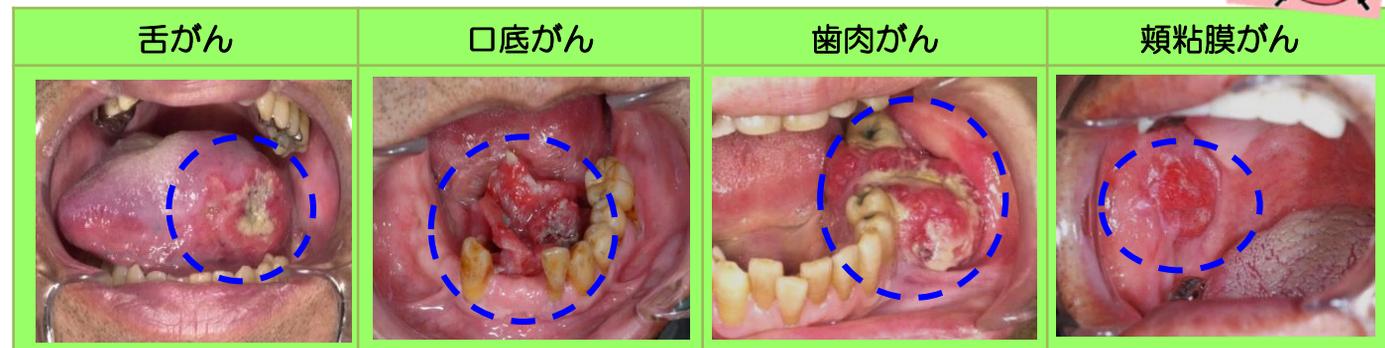
8

2019

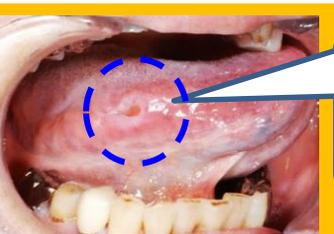
「口腔がん」は肉眼で確認しやすいがんで、比較的早い段階で発見することが可能です。しかし、日本では毎年7000人が口腔がん罹患し、そのうち約3000人が死亡しており、口腔・咽頭がんの死亡者数は年々増加しています。早期発見が遅れる要因として、初期段階では痛みなどの症状が少ないことや、口腔がんの認知度の低さ、口内炎との鑑別が難しいことがあります。

### ◆ 口腔がんの症状・見分け方

口腔がんは、口唇がん・舌がん・口底がん・歯肉がん・頬粘膜がんなどに分類されます。

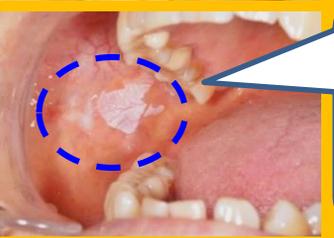


### ★ 口腔がんによく似ている病変



#### 【口内炎】

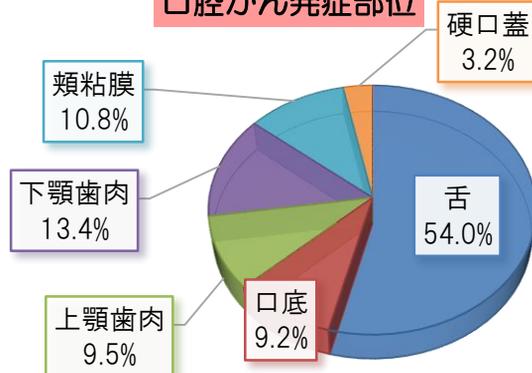
1週間程度の痛み。  
2週間以上症状の改善がなければ**要注意!**



#### 【白板症】

前癌病変で約1割ががんへ移行するため、切除治療が一般的。  
病変の拡大や**びらん形成**時は**要注意!**

#### 口腔がん発症部位



### 悪性腫瘍の特徴

- ① 病気の進行が速く、できもの（潰瘍・腫瘤）が速く大きくなる
- ② できものの周りが硬い
- ③ 周囲と癒着していて、境界がはっきりしない
- ④ 他の部位に転移する



早期に発見することで、治癒率や生存率が高くなるだけでなく、QOL（生活の質）の低下も最小限に抑えることができます。

**できるだけ  
早い受診を!**

疑わしい病変があれば、できるだけ早く口腔外科に紹介をお願いします。

### ◆ 口腔がん予防のポイント

- ① タバコ・お酒を控える  
※特に、喫煙者の口腔がんの発生率はタバコを吸わない人に比べて7倍も高く、死亡率は4倍になるといわれています。
- ② バランスのいい食生活を心がける
- ③ 歯磨き、うがいをしっかり行い、口の中を清潔に保つ

# 口腔がんの治療と摂食嚥下診療

## ◆ 治療の流れ

口腔がんの一般的な治療は手術療法・放射線療法・化学療法があり、必要な治療を単独あるいは組み合わせで治療します。



部長 前田康弘



医長 斎藤忠仁

胃ろう造設

手術

摂食嚥下

## 【手術治療の流れ】

手術により、摂食・嚥下機能に悪影響を与えることも少なくありません。そのため手術の種類によっては手術前に胃ろうを造設し、経口摂取ができるまで、経腸栄養での栄養管理となります。

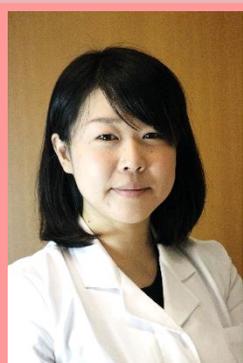
術式はがんの浸潤度などにより異なりますが、切除の大きさにより再建が必要になる場合があります。当院では11年前から口腔外科・耳鼻科・形成外科のチームで手術をしています。

手術による後遺症は、主に切除した部位と範囲、患者さんのももとの能力によって、種類と重症度が異なります。

手術後は感染予防のために、専門的口腔ケアを行います。

また、必要な患者さんには手術前より摂食嚥下診療を開始し、多くの患者さんが経口摂取のみで栄養管理ができる状態となって退院されています。

## ◆ 摂食嚥下診療・診断



医長 渡邊 真央

食べ物を口腔へ取り込み、噛んで味わい、喉から食道へ送り込む作業を摂食嚥下といいます。この作業を通常”食べる”の一言にまとめてしまいが、舌の複雑な運動で食物を動かし噛むこと・喉へ送り込むことができ、口腔上部の軟口蓋や咽頭後壁(食道へ続く喉の筋肉)、甲状軟骨(のど仏)や喉頭蓋(気管の蓋)、食道括約筋(食道の開閉)など多くの組織が連携し、複雑に、順序タイミングよく作業を行っています。

脳血管障害やパーキンソン病やALSなど神経の病気、頭頸部癌、薬の副作用による口腔乾燥、低栄養、単なる老化によっても摂食嚥下機能は障害されます。

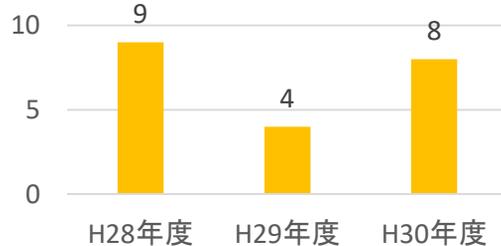
現在、当院で行われている検査方法には主に、「嚥下造影」と、「嚥下内視鏡」の2種類があります。患者さんの状態や機能に合わせ、どちらの検査を行うか判断しています。ただし、検査を希望する場合は、体調への十分な配慮が必要ですので、受診前に必ずかかりつけ医師（主治医）への相談と、情報提供書の準備をお願いしています。

食事をして栄養を摂ることは生命維持に必要なことですが、食事は人との関わり、コミュニケーションツールのひとつとして大切なものであるとも常々感じています。同じテーブルを囲み、例えばプリンひとつでも家族や仲間と一緒に食べる。この当たり前の日常が困難になってしまった患者さんも多いのです。診療科の枠を超え、先生方からのご協力をいただきながら、日々診療にあたっています。

口腔外科では、外来や入院対応で年間500件以上の手術を行っています。

顎変形症・歯原性腫瘍などの患者さんがおられましたら、ぜひご紹介をお願いします。

口腔がん手術件数



口腔外科手術件数

